令和８年度　第１回山形市スポーツ推進審議会　会議録

１　開催の日時及び場所
⑴　日　時　令和８年９月８日（火）　午後３時３０分から午後５時
⑵　場　所　山形市役所１１階　大会議室

２　出席者
⑴　委員（出席１０名　欠席なし）
石井委員　小野委員　熊坂委員　鈴木委員　福田委員　逸見委員　土井委員
松田委員　横山委員　渡邉委員
⑵　事務局（１２名）
松沢文化スポーツ部長　小野寺スポーツ課長
花輪文化スポーツ政策調整監（兼）部活動地域展開推進室長　日野スポーツ施設整備室長　ほか（別添資料のとおり）

３　傍聴者
一般傍聴者　なし

４　審議経過

【議事】
山形スポーツ推進計画２０２８の進捗状況について
事務局より資料１及資料１－２により説明

委　員
資料１－２最下段の⑷部活動の地域移行に向けたプロスポーツとの連携とは、どのようなことを想定しているのか。プロスポーツとはお金を稼ぐためのスポーツであり、小学生が対象であれば将来の夢やスポーツを続けるきっかけにつながるとは思うが、中学校部活動との連携となると想像がつかない。今後どのように取り組みをされるのかお聞きしたい。
事務局
「山形市スポーツ推進計画」を策定した令和４年度は、国から部活動の地域移行の方針が示された直後の時期であったため、当時はどのような形で部活動の地域移行を進めていくのかを模索していた段階でなかったかと推察される。こうした中で、例えば休日にプロの選手によるスポーツ教室等を開いて、そこに中学生が参加をして、プロの技術や精神的なものを教えていただくようなことをイメージしていたのではないかと思うが、今現在、この成果指標にある通り、部活動の地域展開を切り口に、そういったスポーツ教室のようなものは開催していないので、数値としてはゼロという表示になっている。
ただし、スポーツフェスタの中のプロスポーツの体験教室等で、中学生も参加できるのであれば中学生の休日の活動の１つとしてはなり得るものと考える。
委　員
学校長の立場で、学校のプール施設の老朽化も非常に深刻な問題だと感じている。限られた予算の中でどのような形で整備すれば良いか、10 年ぐらい先の問題なのかもしれないが、将来を見据えて水泳の設備を整えて欲しい。場合によっては、学校から学校外のプールへ移動する交通手段も含めて、何か良い方法はないかと思っている。
あわせて、プロスポーツとの連携の部分では、プロスポーツの影響は、子どもたちの刺激になる。一方で、中学校の大会を行う際にプロスポーツの試合とかち合う機会が非常に増えている。いずれ県の体育館も新しくなるため、ある程度緩和されると思うが、そのような現状があることを申し伝えておく。

委　員
　部活動の地域「移行」を「展開」に直すべきではないか。
事務局
　昨年度から、国も「地域展開」という言葉に改めており、現在我々も「地域展開」という言葉を使っているが、この計画を策定した令和４年当時は、「地域移行」が一般的な表現であったため計画の上ではこのようになっている。
委　員
　中体連での具体例を申し上げると、希望する中学校のサッカー部の選手を集め、モンテディオ山形のゴールキーパーコーチを招きサッカー協会とも連携してのスポーツ教室を昨年度２回ほど開催している。このような面での連携はできてきている。
　ただ、プロチームとしてはモンテディオ山形にしてもワイバンズにしても中学校のユースジュニアチーム持っているため棲み分けか難しい部分もあるが、部活動の指導者を対象とした教室などは可能になってくるのと思う。
委　員
　部活動地域展開が本格化した今の状況と、資料の成果指標 29.9%はどのような数値なのか教えてもらいたい。
事務局
　山形市の場合、令和８年度の中体連の地区総会等が終了し、活動の主体が３年生から１・２年生に切り替わるタイミングから、原則として休日の部活動は行わないこととして、地域に展開している。山形市の大会は６月から７月にかけて地区大会があって、県大会、東北大会そして８月末ごろには全国大会も終了しているということで、基本的には運動部については休日の部活動は原則行わないこととして、地域展開が徐々に進んでいる。
　こうした中、山形市では、地域クラブ活動を認定する認定制度というのを７月から設けており、現在の認定制度の申し込みクラブ数は、昨日現在でスポーツ活動、文化芸術活動合わせて 73 件で、このうち 51 件を認定している。残りの件数については現在審査中という状況となっている。
委　員
クラブ化ができないところは出てきているか。
事務局
「できない」との声はなく「どうすればできるか」との相談に助言させていただいている現状。
　先ほどの２番目の質問の「29.9%」については、分子が、令和７年度に県中体連事務局が調査した県中体連に登録している地域クラブで活動している生徒の数のうち山形市内の生徒数 1,690 人。分母が山形市内の令和７年度の全生徒数 5,662 人。この比率が 29.9%となっている。
委　員
　各競技団体が一番懸念してるのが、地域展開をして競技者数が減少しないかという点であり、ぜひ１人でも多くの子供たちがクラブに入るようにしていただきたいと思う。
委　員
　ウインタースポーツへの参加推進促進というところで、スノースポーツフェスティバルを開催し参加人数が増加しているとのことだが、何年か前にはスケート場でスケートフェスティバルを開催していた。そこではスピードスケートの 100 メートル競走とかカーリングの体験、長靴ホッケーなど小学生以下の幼児から大人までにぎわっていたのが、現在は開催されていない。スケート場トラックの中にリンクが作られていないという理由もあるかもしれないが、またスケートでのフェスティバルを再開していただきたいと思っている。その予定はないか。
事務局
　スケートフェスティバルにつきましては、スポーツ協会と連携して開催していたと記憶し

ている。
施設の老朽化が進んでいるが、400ｍリンクをうまく活用しながら、実施可能かどうか検討させていただきたいといと思う。

委　員

街中の賑わい創出の企画として、来年の１２月、１月にかけて、市スポーツ協会、市商工観光部門、地域商店街の連携で、冬のにぎわい企画ということで、人口のリンクを作る予定になっている。
この企画をきっかけに、1人でも多くの方にスケートを楽しんでいただいて、次のステップとしてスポーツセンターに行っていただけるような仕組みを予定している。

委　員

中学校の部活動地域展開について、中には営利を目的とするようなクラブチームもあるが、学校の施設を使用するにあたっての減免処置はどのようになるのか。

事務局

地域クラブの認定については、一定の条件を満たす地域クラブを市町村が認定する制度となっており、この条件によると、営利を目的とするようなクラブやプロ選手養成チームのように勝つことを主目的にするような地域クラブは認定されないことになる。また、学校施設を優先的に使用できるのは、市から認定を受けた地域クラブになるので、営利目的のようなクラブは学校施設を優先的には使用できないことになる。

委　員

小・中学校にはグラウンドや体育館の開放制度がある。そこでの部活動地域展開に係る施設利用の減免制度はどのようになるのか。

事務局

教育委員会が、学校活動に支障のない時間帯をスポーツ少年団や地域団体に開放しているが、それは学校毎に施設開放運営委員会を設け、どの団体がどの曜日にどの時間帯に使用するか等の調整を行っている。
今回のこの地域展開に係る認定地域クラブの優先使用の時間帯は、休日の９時から夕方６時までとしており、部活動認定地域クラブだけが優先的に使用できることになる。学校施設を一般開放で使用する場合は、基本的には使用料が発生し、利用目的や利用団体によっては減免されているというのが現状だと思う。
この９月からは、先ほど申し上げた休日の時間帯は認定された地域クラブが優先使用している状況になっている。

委　員

レクリエーションスポーツ等の育成のお願いになるが、山形市レクリエーション協会主催で、各種事業を開催しているが参加者が少なくなっている。また、役員も高齢化しており役員の担い手が不足しているというのも大きな課題となっている。
山形市を会場にレクリエーションインストラクターの講座を、市レクリエーション協会で主催しているが、なかなか受講者が集まらない。募集・周知活動に山形市からの協力をいただきたい。
ぜひホームページなどを通して、学校をはじめ、幼稚園、山形・文教・芸工大学及び専門学校などにも、レクリエーションのインストラクターの講座があることを共有していただければと思っている。

事務局

可能な限りPRに協力させていただきたいと思う。

事務局

部活の地域展開の切り口で補足すると、認定を受ける、受けないにかかわらず、いわゆる地域クラブ活動を推進する意味で、市のホームページで中学生が参加することができる地域クラブを紹介している。もしここに掲載可能であれば相談いただきたい。

委　員
　スポーツフェスタの参加者数はどのような数値か。
事務局
　各プログラム参加者数の合計数であり、延べ人数となっている。
委　員
　認定クラブは学校部活動がそのまま移行しているパターンが多いのか、それともどんどん子どもの数が減ってきている中で複数の学校による合同のクラブ数が増えているのか。
事務局
　山形市の場合、平日の部活動を継続しているので、休日についても平日の部活動と同じメンバーで活動したい生徒が多く、部活動ごとにクラブ化をする「単体型のクラブ」が今のところ多い傾向である。
委　員
　この先、生徒数が減っていったときに集約化していく必要が必ず出てくると思うが、このあたりのアイディアはあるか。
事務局
　地域展開がスタートしたばかりのこの時期は、生徒達の希望に沿ってまずは単体型のクラブ化を推進している。ただご指摘の通り、将来に生徒数が減少し単体で活動が困難となれば、複数の学校合同でのクラブ化も起こりうると考えている。
委　員
　スポーツ施設の整備・充実という部分で、今後の計画を教えていただきたい。
事務局
　スポーツ施設整備室で取り組んでいる事業としては、県市共同での新スポーツ施設の整備であり、その場所については旧県立中央病院の跡地を予定している。そこに、県が整備を計画してるのが多機能性を有する屋内スケート施設で、市が整備を予定しているのが体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設である。
　今年度、「基本計画」の策定をする予定となっている。

【その他】
**次期「山形市スポーツ推進計画」の策定について**
　事務局より資料２により説明

　委員からの質疑や意見はなし。